

第45回記念新日美展 特集号

回 会 報

176号

新日本美術協会

事務局

千葉県柏市大津ヶ丘
3-17-17-401
森屋治三方
TEL04-7191-6760

編集委員

石原 修
早田美智子
篠 光定
湯澤朱美

原稿常時募集

次号令和4年2月予定

第四五回記念新日美展を終えて

実行委員長 篠 光定



篠 光定

厳しい情勢の下様々な制約がある中、節目となる第四五回記念新日美展を開催することができました。

今大会にご出品いただいた作家の皆様、新日美展開催にご尽力いただいたすべての方々に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症防止に注意しながら、準備から会期終了まで、今までは違わない対応策を迫られました。全国から二一五の作品が集まり、ご来場へのご招待状送付を

控えながらも、二〇〇〇人を超える来場者をお迎えすることができました。

会場に並ぶ大小様々な作品により多様な造形芸術の空間となり、各種イベントは中止となりましたが、三密を避けてのギャラリートークでは、絵画、工芸共に作家達の作品に対する熱心な探求心が講師に対する質問につながりました。

全国の様々な作家たちがその持ち味を表現し、各々の技術、心を持ち寄って互いに刺激、感動を得て自らの技量を高める場づくり時間づくりを目指す美術展が、これからも美術、文化の発展に寄与することを願います。

この後の京都巡回展は、今

までの開催時期とは違い、紅葉から初冬への移ろい美しい一二月初旬に京都文化博物館にて開催されます。

又来年の第四六回新日美展も二〇二二年一〇月一五日からと予定しており、会場も東京都美術館の一階第一と第二展示室になります。

次回に向けて皆様の素晴らしい作品をお待ちしています。

外部審査員 芳賀先生による

ギャラリートーク

委員 児玉八千穂

トークは一〇月三日午後二時過ぎに第九室から行われました。参加人数は一〇数人でした。会場を回つての芳賀先生の見解の抜粋です。

「作品には大切な点が三つあります。一つ目は形。二つ目は色彩：調和や強調。三つ目は、作者が描きたいと思うところが描けているのか。それが鑑賞者に伝わるのか」とのこと。一般・小品部門では描き込む部分と、遠景等の大胆な省略も必要だとの見解。準会員・会友・会員絵画では明度・彩度の色彩についての見解が多く、特に木々は夏には殆どの葉が同じ

第45回記念新日美展 出品作品一覧



新日美展の記録
第45回 record of exhibition



新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して、ギャラリートークを実施

色になるが、四月末から五月の連休の頃は木によって緑色が違うので、その頃に観察するべきだとのこと。また、水に映る風景では、水の揺らぎと色調の観察が必要とのこと。工芸は全体のレイアウト、素材を生かすことが大事だとのこと。

今回最も印象的だったのが、絵画の上原さんの作品に対する見解で「目で捉え、心で捉えるが出来ていません」。制作で最も大切な核心ではないでしょうか。